

KANSAI UNIVERSITY

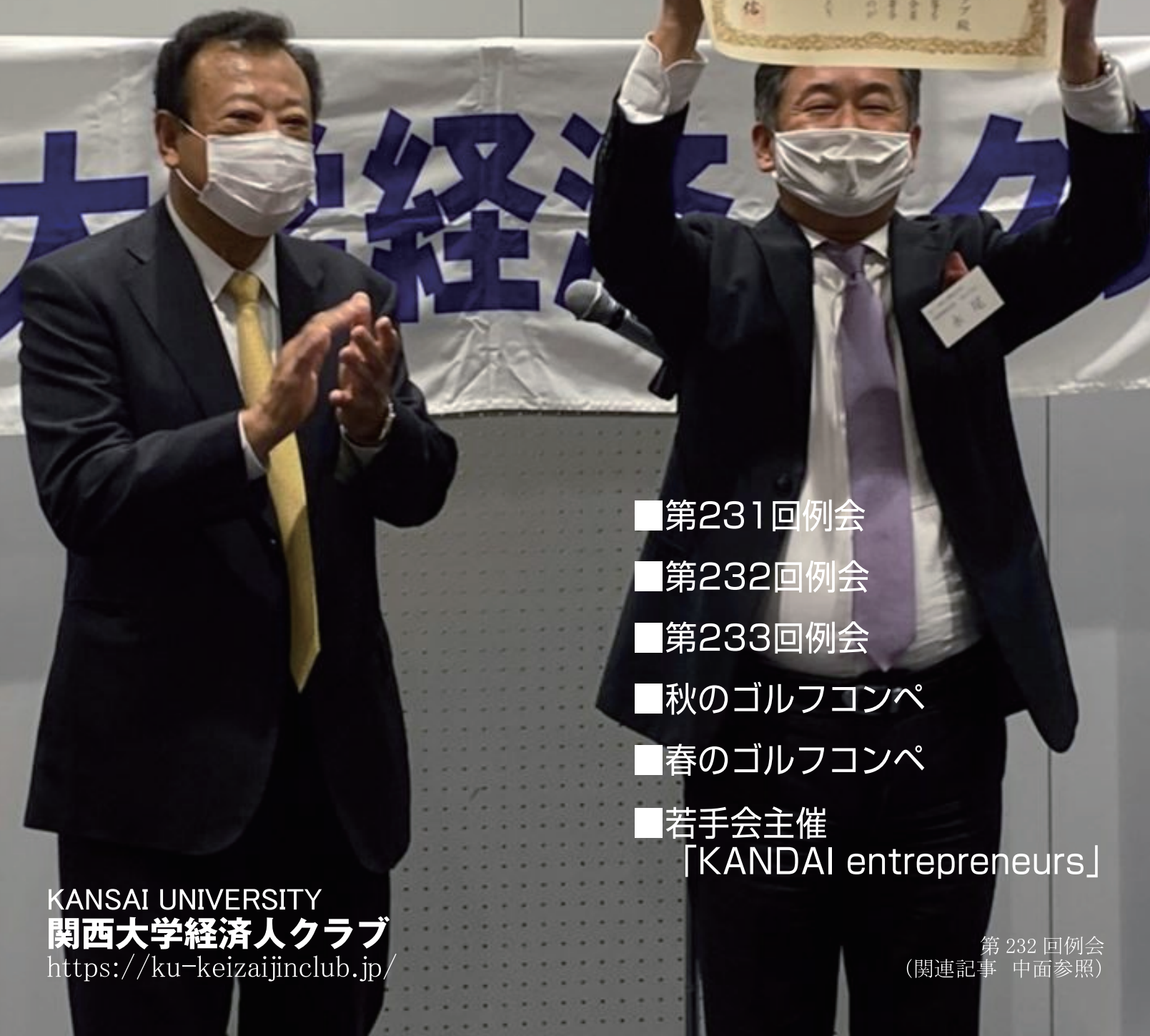
KEIZAIJIN

CLUB

News

2022

It started aiming to attempt cultivating friendship in November, 1963



- 第231回例会
- 第232回例会
- 第233回例会
- 秋のゴルフコンペ
- 春のゴルフコンペ
- 若手会主催
「KANDAI entrepreneurs」

KANSAI UNIVERSITY

関西大学経済人クラブ

<https://ku-keizaijinclub.jp/>

第232回例会
(関連記事 中面参照)

第231回例会

『すべてはお客様のために』 ～お客様に愛され好まれるスーパーコノミヤ～ 芋縄 隆史 氏 (S62商学部商学科卒)

関西大学経済人クラブ第231回例会が、2021年9月13日に開催されました。

未だコロナウイルスの終息が見えない状況のなか、緊急事態宣言が延長され中止もやむを得ない状況でしたが、1年半の期間、会場での例会が開催できていないことも鑑み、運営委員会で何度も検討し、最終的に役員会で協議した結果、大阪新阪急ホテルの会場とZoomを利用したWEB形式のハイブリッド方式で開催させていただき運びとなりました。会場におきましては、ソーシャルディスタンスを保ち、感染防止対策を徹底し、ご講演のみで懇親会は開催せず、お持ち帰り弁当につきましては中止しました。

当日、会場には来賓6名ゲストを含む70名、Zoomでは22名、計92名の参加者のもと開催されました。楠副代表幹事の司会により開会、学歌斉唱、永尾新会長の挨拶の後、ご逝去された森本靖一郎名誉顧問と栗原照次郎相談役のご冥福をお祈りし黙祷を捧げました。今年5月に当クラブ会長を退任された生田相談役と、長年にわたり校友会にご尽力いただいた寺内前会長に対して感謝の気持ちを込めて花束が贈呈されました。また、来賓を代表して芝井敬司理事長、前田裕学長、田中義信校友会長からご挨拶をいただきました。

その後、校友会副会長で株式会社コノミヤ代表取締役社長の芋縄隆史様から「すべてはお客様のために」～お客様に愛され好まれるスーパーコノミヤ～というテーマでご講演いただきました。城東区鳴野に昭和30年に衣料品店として創業した「好屋（コノミヤ）」でしたが、昭和37年に火災により店舗を焼失、焼け跡から何とか残った商品を販売したのが、スーパーマーケットの始まりでした。その際、お客様からの温かい言葉や応援をいただいたことを忘れず、恩返しの気持ちをもって、今でも事業を通じて社会に貢献するという基本理念で商売を続けられています。昭和47年10月にコノミヤ1号店（鳴野店）がオープン、小学3年生からスーパーの手伝いをしていた芋縄社長ですが、幼少期は身体が弱く病気がちだったそうです。関大一高校に入学してからはアメリカンフットボール部に入部し、関西大学でもご活躍され、当時2部リーグだったアメリカンフットボール部を1部に昇格、勝って涙する貴重な経験をされました。卒業後は株式会社コノミヤに入社、32歳で社長に就任されました。



他社が撤退した店舗を買収、独自の経営理念とノウハウでその店舗の売上をアップさせ、M&A等で事業を順調に拡大され、現在では92店舗、従業員数7500人、グループ売上高1300億円まで成長されました。2020年においては、業界の売上規模では6番目ですが、成長率はダントツのナンバー1を達成されています。

また、スーパーマーケットだけでなく以下の7つの事業を経営されています。

- ① スーパーマーケット事業（コノミヤ・トヨダヤ・おくやま・ワンダー）
- ② フードバンク事業（食品ロス削減）
- ③ 外食事業（ちゃんこ・焼肉『好屋』）
- ④ スポーツ事業（なでしこリーグ『コノミヤ・スペランツァ大阪高槻』）
- ⑤ エネルギー事業（太陽光・ガス発電、蓄電、販売）
- ⑥ アグリ事業（鎌田牧場）
- ⑦ リース・システム事業

ボーイスカウトやアメリカンフットボール、交通事故で「世の中に生かされている」と感じた経験をもとに、人生のゲームプランを立てて、従業員・取引先・お客様の幸せにすることを目標として経営されています。高規格救急車や救急艇を寄付の他、読売テレビ24時間TVに23年間協賛、親子文楽体験・食育体験や18都市と災害物資協定を締結する等の社会貢献だけでなく、「提供する商品やサービスを通じてお客様や地域社会に貢献」「すべてはお客様のために～お客様への恩返し～」の精神で今後も事業発展に努められると締め括られました。仁井副会長から謝辞をお伝えし、閉会となりました。

終わりに、今回ご講演いただきました芋縄様には、昨年より3回のご講演キャンセルにも関わらず、快くお引き受けいただいたことに感謝申し上げます。参加いただいた皆様も芋縄様のお人柄と経営理念に共感され、ご講演を拝聴できた事にとっても満足されてまいりました。一日でも早くコロナウイルスが終息し、心置きなく皆様とお会いできることを願っています。

（平成6年法学部法律学科卒 代表幹事 村上 康司）



第232回例会

『弁護士として思い出に残る事件・校友会の意義と展望』

田中 義信 氏（関西大学校友会 会長 S50法学部法律学科卒）



関西大学経済人クラブ 232 回例会が、2021 年 11 月 29 日に関西大学梅田キャンパス 8 階ホールにて城戸礼子様のご司会により開催されました。

今回は新入会員、ゲスト参加の他、東京経済人倶楽部、中部経済人クラブからもリモートで参加頂きました。

学歌斉唱に始まり、永尾俊一会長より、開会のご挨拶を頂き、来賓を代表して芝井敬司理事長よりご挨拶を頂きました。そして、本日のご講演、関西大学校友会第 11 代会長の田中義信様より「弁護士として思い出に残る事件・校友会の意義と展望」というテーマで迫力あるご講演を頂きました。

・ どういう気持ちで仕事をしているか

関大情報誌リードの対談記事でパナソニック株式会社特別顧問の大坪文雄様のお言葉から、日本の中小企業は創業の理念がしっかりしている企業が多く生き残っていることを例にあげ、建学の精神を忘れず、人間力を高める精神を持ち、長寿大学としてのビジョンを持つことを強く語られました。

自身の弁護士という仕事では、「悪い奴は眠らせない」をモットーに、あらゆる証拠を調べ、依頼者を裏切らない、友達を裏切らない、信念をもって仕事をする、義を大切に、悔いを残さない人生のために、毎日を真剣に、全力投球で、感謝を忘れない気持ちを大切に、日々の仕事に取り組んでおられます。力強いお話は講演を聞く各会員の心に強く響いている様子でした。

・ 思い出に残る刑事事件

田中様が携われた昭和 63 年 1 月の事件です。事件半年前、弁護することになる当時銀行員で一家の主人である男性が不在の間に、不審な人物が一家に侵入、奥さんが馬乗りになられる、下着を取られるなどの被害が何度もありました。当時男性は警察に相談、自己防衛で護身するようアドバイスされたため、夜中に侵入した犯人を見つけ追いかけた際、バットで打撃、犯人が死亡し事件となりました。

刑法により 3 年以上の懲役、傷害致死罪が問われる事案でしたが、田中様は示談交渉をすすめるため遺族に面談、謝罪、心境を配慮した丁寧な説明を行い、結果、遺族の心に伝わり、処分を希望しない旨の示談書を取り、その後、検事と何度も面談し説得の上、男性を起訴猶予に導かれました。当時 6 歳であった男性の息子は医者になり、今はドクターヘリで人命救助のお仕事をされているそうです。



・ 校友会の意義

18 歳人口は年々減少しており、2030 年から 100 万人をきる少子化を確実に迎えることに危機感を持つべきではないか、校友会の持つべき意義を熱く語られました。

大学が選ばれる時代が来ていること、相当な危機感を持って臨む必要があることを訴えられました。

日本の私立大学は60歳以上の高齢者に学びの機会を与える生涯学習の他、外国人留学生を引き込むことなど対策をとっていますが、今こそ本質を考え、母校関西大学の隆盛は大学と共に校友会として物心両面で支え、地域支部、海外支部、職域団体含め約240の団体が親睦を深め団結して問題解決をしていく重要性をお話頂きました。

また、昭和54年の機関紙関大の記事から文学部教授の飯田正一先生のお話をご紹介頂きました。戦時中シンガポールは指令基地でありましたが、関大ゆかりの人々で時折集会を行い、南十字星に向かい学歌をうたい、階級を問わず、職業地位をはなれて先輩後輩楽しく、校友会の意義を感じる強いエピソードをご紹介頂きました。

飯田先生は「シンガポールに海外支部が作られるのはいつか」と記事で最後に締めくくられていましたが、2012年に前段ご紹介のありました大坪様の尽力によってシンガポール支部が設立され、平成26年2月、田中様は前校友会長の寺内様と共にシンガポール支部訪問を実現されておられます。

・校友会将来の展望

田中様は地域支部のどこも若手校友が参加しないとの悩みを持っていると感じておられ、支部には気軽に若手を誘う会を持つことや、社会連携として区民祭りに参加すること、一歩すすんで各支部は社会貢献に向かってほしいと展望を述べられました。

また、日経新聞に掲載されたとある大学校友会会長の記事をご紹介頂きました。ケニアで生理用品を買えない女性の貧困を見た女学生が布製の生理用品を配る社会貢献活動をしており、その大学の校友会が支援しているという内容です。

関西大学でも関西ボランティアセンターを2002年に設立、淀川や大和川の清掃活動、琵琶湖美化等、すでにボランティア活動がスタートしており、海外支部支援にも積極的で、海外交流促進特別委員会を11名で構成し、海外校友と意見交換を深め、今年12月1日にはアジア校友とミーティングをWEBで開催予定であることをご紹介頂きました。

来年は大学昇格100年に生きることの幸せを感じ、来年予定しているフェスティバルも楽しい企画を用意し著名人、吉本興業とも提携し、地域の子供を呼び込み1万人を呼びたい考えを示され、校友会、経済人クラブ発展を祈念し本講演を終えられました。

最後に浅田美明様より謝辞を頂き、選ばれる時代、社会貢献を大切に一致団結する気持ちを共有し、閉会となりました。



(平成18年経済学部経済学科卒 今村 聡)



第233回例会

IDEC株式会社代表取締役会長兼社長 船木 俊之氏の講演を聞く

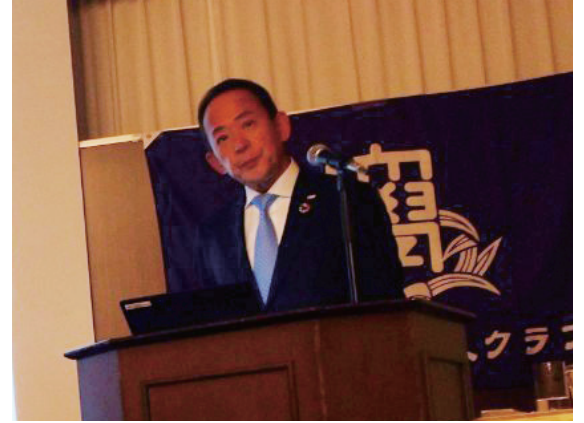
関西大学経済人クラブ第233回例会が、2022年2月7日に開催されました。第231回に続き、大阪新阪急ホテルの会場とZoomを利用したWEB形式のハイブリッド方式で開催し、ゲスト参加のほか、東京経済人倶楽部からもリモートでご参加頂きました。糸野幹事の司会進行により開会、学歌斉唱、永尾会長の挨拶の後、来賓を代表して芝井敬司理事長、Zoomより田中義信校友会会長からご挨拶を頂きました。その後、IDEC株式会社の代表取締役である船木俊之様より、本日のご講演を頂きました。

・船木様の人生について

船木様は大学卒業後、高見沢サイバネティクスに就職、鉄道の自動券売機等の製造販売に携わられておりました。その後、仲間と共に自動販売機の会社を創業されるも事業は軌道にのらず、和泉電気（現 IDEC）の創業者であったお父様からの提案で、和泉電気に入社、米国の合弁会社で3年間海外修業をすることとなりました。6か月間、英会話等の準備期間を経て渡米したものの、渡米先では相手が何を話しているのか全く聞き取ることができず、孤独な生活の中ビジネスに打ち込む日々を過ごされました。渡米から2年後、パートナー企業との関係悪化により合弁会社を売却することとなり、現地日本人は帰ることになりましたが、船木様は一人米国に残り、電子リレーの販売会社を設立するご決断をされます。緻密な営業戦略と、ニューヨークの中心で汗だくになりながらの愚直な販売活動の成果もあり、米国での事業を成功へと導かれました。現在 IDEC の米国売上げは1億ドルに達しているとのことでした。

その後、1997年に日本本社の社長に就任されます。日本を25年離れていたこともあり、帰国後様々なカルチャーショックを受けられる中で、大規模な社内改革に取り組みられます。代理店の再編、機種の新廃合、早期退職者の募集、ERSシステム導入による業務の一元管理など、様々な側面から大改革を行い、現在の IDEC の成長へと繋げておられます。

2017年には、社内の公用語を英語にすることを目標に掲げ、現在では取締役会の運営は英語で行われております。また、グローバル部門の社員の大半は英語が喋ることができ、いち早く社内のグローバル化を進められることに成功されております。



・今後の日本への想い

船木様はグローバル市場における日本の状況において、大変危機感を覚えておられます。2030年には日本の人口は1億1600万人まで減少、労働人口も約640万人が不足することが予測されております。この労働人口不足をどのように補っていくかが重要な課題となっており、解決する手段として、以下の3点を挙げられました。

①女性の働きやすい環境づくり②外国人の永住を増やすための移民法改正③デジタルシフト、単純作業の自動化。DXの発展。

IDECも75周年を迎え、船木様は「皆様と一緒に日本を明るい、楽しい国にしていきたい」と締め括られ、本講演を終えられました。

最後に芋縄副会長から謝辞を頂き、今回米国よりご参加頂きました船木様へ、経済人クラブからの謝礼をお贈りさせて頂き、閉会となりました。

(平成28年経済学部卒 萩野 真志)

秋のゴルフコンペ

TOPICS

経済人クラブ秋のゴルフコンペが、9月24日に名門茨木カンツリー倶楽部西コースで初参加4名を含む13名の参加で開催されました。コロナウイルス感染状況を考慮し開催が危ぶまれましたが、表彰式・会食を中止、ソーシャルディスタンスを保ち感染防止に努めてのプレーとなりました。自然美に満ちたコースは手入れが行き届いており、深いラフ、アンジュレーションの効いた高速グリーン、絶妙な位置に設置されたハザード等、天気も良く絶好のコンディションでのなか、戦略性のあるコースでプレーを楽しみました。



優勝は森岡慎治氏、2位は浅田美明氏、3位は芋縄隆史氏となりました。

(平成6年法学部法律学科卒 代表幹事 村上 康司)

春のゴルフコンペ

TOPICS

経済人クラブ春のゴルフコンペが、3月25日に茨木カンツリー倶楽部西コースで開催されました。初参加2名を含む13名の参加となりました。雄大な景色の中とてもよく整備されており、立体的なバンカーや難しいグリーン、大きな池とともに難易度が高いコースを絶好のゴルフ日和の中技術の差はありましたが、それぞれにゴルフを楽しみました。コロナウイルス禍ということもあり、表彰式・会食は中止し、ソーシャルディスタンスを保ち感染対策をしつつプレーしました。



また、芋縄副会長より参加賞として記念ボトルの日本酒を差し入れ頂きました。

優勝は浅田美明氏、2位は橋本幸治氏、3位は富永昌雄氏となりました。

(平成9年工学部建築学科卒 副代表幹事 楠 隆夫)

若手会

次世代を背負って立つ若手メンバー同士が気軽に交流を図る事ができるように設立された会です。交流会・研修会だけでなく、趣味や遊びを通じて、若手世代の交流と親睦、自己啓発を図り、母校関西大学出身者による人脈の形成を目的としています。

2021年8月2日

若手会主催『KANDAI entrepreneurs』開催

今回の若手会は『KANDAI entrepreneurs』と題して、平成30年卒の若手起業家である太田有哉様の起業のきっかけや、今後の野望などについて30分ほど語っていただいた。

太田様はオリジナルブランドのテントサウナの開発をされている最中であり、また銭湯をより身近に感じてもらう活動をされており、その活動で地域活性化に繋がりたい、という野望をお持ちの若手起業家であった。

ベンチャー企業はその企業を構成するそれぞれの特徴を最大限に発揮し、足りないピースを埋めあって成長していく、という言葉が印象に残った。

参加者全員が自己紹介をし、それぞれの夢を語りあった。また、経済人クラブ会長である永尾先輩にもお越しいただき、経済人として成長するには何が必要なのか、ということをご指導いただき、大いに盛り上がった。

『KANDAI entrepreneurs』は関大卒の若手起業家にスポットをあてることを目的としてシリーズものとして考えている。この企画を起点により活発な交流のある会となるよう企画していきたい。



2021年12月21日
『起業するまで』
吉田 貴美子 氏
(H23文学部卒)



2022年2月24日
『資産運用』
荻野 真志 氏
(H28経済学部卒)



2022年3月15日
『外国人雇用の未来』
糸野 慎一郎 氏
(H20法学部卒)
太田 有哉 氏
(H30経済学部卒)

YOU'RE INVITED TO
KANDAI
entrepreneurs